

令和8年度予算編成方針

公立大学法人福知山公立大学では、2学部1研究科の体制が整い、大学・高専機能強化支援事業の支援を受けながら、デジタル・グリーン等の成長分野の強化として、令和8年度に情報学部入学定員の増員を行う。また、情報学を基盤とした地域協働型教育及び汎用的学修能力の育成のために学士課程教育を刷新し、新カリキュラムの実施と併せて、教職課程を設置することで、北近畿地域に根差す「地域のための大学」として大学全体のプレゼンスを高めていく。

他方で、光熱水費をはじめとする広範囲にわたる物価上昇や、人事院勧告に準じたベースアップによる人件費の増加、施設老朽化に伴う修繕費の増加、退職給付支出は、本学の経常経費の増加につながり、財政基盤維持に対する大きな課題をもたらしている。加えて、昨年度には設立団体から交付される運営費交付金が大幅に減額され、本学の財政状況は一層厳しさを増している。令和9年度には第2期中期計画期間の最終年度を迎え、第3期中期計画を策定し、中長期的期間で収支均衡を確保することが求められている。

このため、安定的な学生数確保に向けて新しい総合型選抜の導入や広報体制強化を図り、引き続き志願者確保に努めるとともに、施設の老朽化対策と機能向上の観点から、設立団体と施設整備に関する協議を継続し、中長期的なキャンパス整備の方向性を共に構築していくことが重要である。設立団体から交付される財政基盤の基礎となる運営費交付金の確実な確保に加え、スクラップ＆ビルドを基本とした既存事業の見直しを進め、限りある財源の効果的な活用を推し進めなければならない。

このような背景のもと、令和8年度予算編成方針を以下のとおり定めるものとする。

【予算編成方針】

- (1) 教育研究環境の整備及び充実、コスト増への対応を図るためには、財政上極めて重要となる学生数の確保が不可欠であり、これを前提に収入を見込むものとする。
また、補助金、寄附金、受託研究収入、ネーミングライツ、資金運用収入等、外部資金の獲得を積極的に推進し、多様な収入源を確立する。
- (2) 限られた資源を有効活用するため、成果の乏しい既存事業は廃止を含め抜本的に見直すこととし、その財源を成果が見込まれるものに重点的に配分する。
- (3) 教育経費については、学士課程教育の刷新を進める中で、学生にとって魅力ある学びを実現するために、令和8年度に基盤教育院を設置するなど、教育環境の質的向上を図るための必要な予算を措置する。
- (4) 研究力の強化や研究環境の質的向上を図る上で研究経費は必要不可欠であることから、増員する教員に対する個人研究費や研究施設を運営するための基盤経費など、必要な予算を措置する。

- (5) 地域課題の解決に向けた共同研究、地域の人材育成、自治体・企業との協働プロジェクトなど、地域連携活動はますます多様化・高度化していることから、これらの活動を安定的かつ継続的に展開できるよう必要な予算を措置する。
- (6) 一般管理経費については、昨今の物価上昇等への対応に必要な予算措置を行いつつ、総コストの増加を抑制し、令和7年度予算と同程度の水準とする。
- (7) 老朽化が進む施設設備については、教育研究活動の重要な基盤であるキャンパスに対する「未来への投資」として設立団体の支援を得つつ、インフラ長寿命化計画に基づき計画的に更新を行うための予算を確保する。また、福利厚生施設（学生食堂棟）の整備については、設立団体との協議を継続し、財源確保についての検討を更に進める。
- (8) 将来的な退職給付の支給に備え、財政負担を平準化するため、退職給付積立を計画的に計上する。なお、退職給付財源については、運営費交付金における特殊要因経費として、新たな財政措置（通常経費とは別枠で措置）のルール創設に向け、設立団体との協議を進める。
- (9) 優秀な人材を確保し、教育研究の質を維持・向上させるため、人事院勧告に基づく福知山市の対応に準じたベースアップを実施する。